

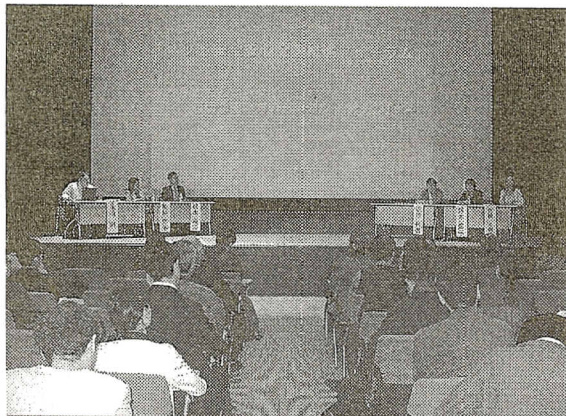
その結果、学校への携帯電話の持ち込みを原則禁止としている割合は、小学校が約94%、中学校が約94%、小学校約29% (7教委)、中学校約33% (8

# ケータイ問題に関心集まる

ネット安全安心全国推進会議 (西原春夫会長、事務局・文部科学省、財団法人インターネット協会) は1月31日、ネット

## 対症療法との意見も

「小・中学校へのケータイの持ち込みを原則禁止することを各都道府県教育委員会に通知した」こともあって、この問題に関心が集まった。



ネット安全安心全国推進フォーラム開く

500人以上の参加者を集めた



数多く

## 品川で全国サミット開く

平成18年4月に品川区、京都市、奈良県奈良市、広島県呉市の教育委員会を事務局に発足、現在、

題してパネルディスカッションが行われた。まず、コーディネーターの桑崎剛熊本県南小

国町立南小国中学校教頭は、小・中学生による

山形大学学術情報基盤センターの加納寛子准教授は、「子どものケータイ

水戸市立中学校のPTA会長である鈴木慶字茨城県メディア教育指導員は、「ケータイ問題のキーパーソンは保護者。

この日は、現役の高校生2人、大学生2人を交

「小・中学校へのケータイの持ち込みを原則禁止することを各都道府県教育委員会に通知した」こともあって、この問題に関心が集まった。

山形大学学術情報基盤センターの加納寛子准教授は、「子どものケータイ

水戸市立中学校のPTA会長である鈴木慶字茨城県メディア教育指導員は、「ケータイ問題のキーパーソンは保護者。

水戸市立中学校のPTA会長である鈴木慶字茨城県メディア教育指導員は、「ケータイ問題のキーパーソンは保護者。

# 「学校への持ち込み禁止」を議論

えて、青少年のケータイを介してのインターネット利用の現状と取り組みを討議したあと、現場教師、民間研究所、父母代表などが参加して、「子どもが正しく適切にケータイを使うためには、大人がどう育てていくのか、家庭での子どものケータイ利用ルールをつくるための実践とは」と

の事情がある場合は、事前に相談してほしいことを保護者に周知している」と前置きし、「授業中に、呼び出し音が鳴る、メールするなどの行為に対しては有効だが、ネット上の様々なトラブル、特に、重篤なネットいじめや誹謗中傷の書き込みに対しては、その行為が学校外で行われてい

ならない。それらの国と日本との決定的な違いは、日本の情報リテラシーが遅れていることである。学校への持ち込み禁止は、問題を水面上に潜らせ、陰湿化させるだけ。学校・保護者・子どもが連携し、きちんとした教育を行う必要がある」と強調した。

へのケータイ普及に伴うメディアリテラシーの研究をしているが、「学校への持ち込み問題の背景には、ケータイの急激な普及に右往左往している中で、悪徳業者に対して、家庭からケータイをシャットアウトすること、あまりにも無防備な状況をある。特に、小・中学生に普及しているコミュニケーションサイトに注意

漫画家の倉田真由美さんは、小学校2年生の母親であるが、「ケータイを小学校時代には持たせない。中学生になっても持たせる予定はない」と、家庭からケータイをシャットアウトすることを明言するとともに、「ケータイ問題を男女一緒にして論じても意味はない。別々に論じるべきだ」などと提案した。